

本当のたくましさとは

船引小学校長 安生昌弘

運動会が1か月後に近づいてきました。楽しみだなと思う人や運動が苦手な人などはちょっといやだなと思うかも知れませんね。でも、どうして船引小学校では運動会を行うのでしょうか。

船引小学校では今のような運動会が昭和30年頃、今から70年位前に始まったようです。その頃は、船引小学校には今よりも300人位多い1,000人位の児童が居て、今よりも狭い校庭で運動会をやっていました。それ以来ずっと行われてきた学校行事なのです。このことは、運動会がどれだけみんなにとって大切なものであるかを示しています。どうして運動会をそんなに長く続けて来たのでしょうか。もう勤のいい人は気づいていますね。そうです、私たち船引小学校の目標「やさしく、かしこく、たくましく」の中の特に「たくましく」に関係あるのです。

運動会が近づくと、私は、ある学校の学年で一番足の速い、5年生の男の子のことを思い出します。その子の学校では学年毎に児童代表の運動会実行委員が運動会の種目を話し合っていて決めていました。実行委員会ではこんな種目を考えて準備にかかりました。個人競走のチャンスレースです。スタートしてカードを拾います。そのカードに書いてある色、赤・緑・黄のどれか一つの色のドッジボールを探してゴールするという種目です。ところが、その男の子には生まれつき、目に問題がありました。色の見分けがつきにくいという問題です。カードに書いてある字で探すべきボールの色が分かっても、どのボールがその色なのか分かりにくいのです。その子の目の問題を知っている先生方は迷いました。「実行委員の意見は大切にしたい。でも運動会でその子に悲しい思いはさせたくない。競技を変えるか。それとも、どうにかしてその子に手助けをしようか。」と…。

次の日、その子のお母さんから電話がありました。「先生、息子から聞きました。3色のボールを探すチャンスレースは予定通りやって下さい。息子はこれからも色の分かりにくい自分の目と共に生きていかなければなりません。自分で問題を解決するように話しておきますから。」と。

運動会当日になりました。私は運動会の準備係で5年生チャンスレースのドッジボールの所にいました。その子がスタートしカードを拾い、ちょっと迷いながらボールを選びました。そして、ゴールではなくて係の私の方へまっすぐ



走ってきます。そして私にこう聞くのです。「先生、このボールの色は緑ですよ。」私が「そうだよ。」と答えると、にこっと微笑んでゴールに向かいました。私の所に回り道をしたので2着でした。でも、とても嬉しそうでした。私は「たくましいなあ」と思いました。走る姿にではなく、私に聞きに来るといって自分で行動する姿を見て感じたのです。

運動会は、その練習の中や当日の会の中で、体を鍛えたり進んで考えて行動したりするのにぴったりの行事です。自分にいろいろな問題があってもそれを乗り越えていけるような体と心をつくるのが「たくましく」なることだと感じますよね。運動会は、みんな自身がたくましくなるためにある行事ですから、運動会の競技、演技、活動の「何でも本気で」全力を尽くしましょう。